

平成24年度事務事業評価シート (23.年度実施事業分)

事業番号	04 12 02	中期総合計画主要施策番号	3-02	担当課	部・課	薬事管理課	
事業名	献血普及啓発事業			内線	2676		
				E-mail	yakuji@pref.nagano.lg.jp		
実施期間	S40 ~	根拠法令等	安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律				
実施方法	県が直接実施					国庫・県単	県単独事業

  

事業の概要等	目的(必要性)	県民医療に必要な不可欠な血液製剤を県民の献血により全て確保するため、献血への理解と協力を求める啓発活動を行う。					
	対象	一般県民					
	目指すべき姿	県内で必要とする献血者を確保し、血液の安定供給を図る。					
	事業内容	献血者を確保するため、献血への理解と協力を求める啓発活動を実施する。 啓発の集中実施:街頭キャンペーン、ラジオスポット広告 体験、実践機会の提供:献血ルーム体験運動、定例献血スポットキャンペーン 若い世代への啓発:高校生リーフレット配布、高校訪問による協力要請					

  

事業コスト	区分		単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳  報償費:480千円 需用費:1,582千円(印刷費等) 役務費:1,223千円(ラジオスポット等)
	最終予算額 (A)		千円	4,898	4,894	4,728	
	決算額 (B)		千円	4,313	4,044	-	
	B(H23はA)のうち一般財源		千円	4,313	4,044	4,728	
	概算人件費	従事する職員数	人	2.80	2.80	2.80	
	概算人件費 (C)		千円	23,288	23,122	23,122	
概算事業費 (B(H23はA) + C)		千円	27,601	27,166	27,850		

  

事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績  血液確保量:目標31,379Lに対し31,057L(達成率:99.0%) ・高校、大学等への協力依頼:143校 ・献血ルーム体験運動:4か所延べ8日 ・定例献血スポットキャンペーン:4か所延べ19日  (効率指標の算出式) 概算事業費 / 献血者数
	高校生向け啓発リーフレット(活)		枚	66,200	66,000	66,000	
	ラジオスポット放送(活)		回	93	98	93	
	献血者数(成)		人	80,428	78,201	77,400	
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 献血者数		千円/人	0.343	0.347	0.360	

  

事業の成果	事業の目標(H23)			事業成果・評価			評価区分
	献血への理解と協力を求めるための啓発活動を行い、平成23年度の献血目標達成率を99.1%以上とする。			献血者数は目標80,000人に対し、78,201人(目標達成率97.8%)であった。H23は前年(99.3%)に比べ目標達成率が低下したが、年度当初の見込み比べ血液製剤の需要量が減少したため、血液センターが移動採血車の運行を調整し採血量を抑制したことが主要因であり、必要となる献血者及び血液量の確保は概ね順調である。			b 期待どおり

  

事業の課題	区分		判定・説明			
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	引き続き献血者を確保していく必要がある。 県は市町村と協力して円滑に献血が受け入れられるよう必要な措置を講じる責務があるため、県の関与を見直す余地は当面ない。有効性を高めるため、本年度も中・高校生からのポスターの図案を募集し、このポスターを活用した広報を行うなど若年層への啓発を重点的に行う。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

  

総合分析等	総合分析(今後の課題、取組方針等)	献血者は2年連続して前年度より減少したが、採血量の抑制も一因にある。 一方、10代、20代の献血者は毎年減少傾向にあり、若年層の献血離れが続いている。今後長期的に安定した血液を確保するためには、引き続き若い世代への啓発を重点的に行っていく必要がある。 平成23年度に実施した信州型事業仕分けでは、「現状維持・拡充」との結果となったが、個々の啓発資材については費用対効果の観点から見直しを行ないながらより効果的な啓発を行なっていく。					
	特記事項	平成23年度信州型事業仕分け実施					